

新春号

平成7年1月1日

江田島町
シルバ－
人材センター

シルバ－
江田島



頌
春

秋の一日を

奉仕活動で

シルバーでは、去る十月十六日（日）に国立江田島青年の家で行われた町内最大のイベント「'94フェスティバル江田島」に事業普及・啓発促進月間行事の一環として、啓発用のリーフレットの配布と会場の整理・清掃など奉仕活動を行いました。

当日は秋晴れに恵まれ、島内外から家族づれなどたくさんの方が訪れ、終日にぎわいました。

午前九時ごろからシルバー会員、事務局員が入口付近で二ヶ所に分かれ、来場者に啓発用リーフレット五〇〇枚を配布し、周知・勧奨を行いました。

又、奉仕活動の二十七名は、熱気球試乗者の整理に六名、自動車での来場者の誘導に二名ずつの交替で六名、それ以外の会員は会場の清掃、終了後の机・椅子・テント等の後片づけを行いました。

たくさんの方の中で、シルバー会員が着用している黄色の腕章が目目をひき、シルバーの存在を認識していただくとともに、シルバーパワーの発揮で皆さんに良い印象を与えたことと思います。

後日、フェスティバル実行委員の方と青年の家所長さんが事務所へお礼にこられました。

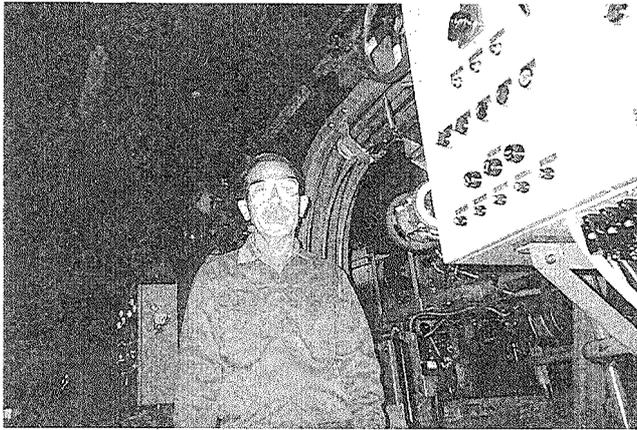
シルバーとしても年一回のこのフェスティバルに奉仕活動が続けてやり、社会に貢献したいと思えます。

すっかり頼りに されています

十一月はじめのある日、江田島ポールを訪ねました。

「三十年か月つとめています。月曜日以外は毎日出勤、六時間前後働いています。仕事はボーリング機（ピンを集め、それを台に立てる）の管理と修理が主ですが、他に電気の配線やランプの取り替え、大工仕事などもやっています。とにかく座っていることが大嫌いなので……」

ボーリング機の後の狭い通路に設けられた作業台。棚にはボーリング機の部品がきちんと整理されて収められています。



「ベルトが切れたり、ネジがゆるんだりすると、場所が狭いので取り替えや補修に苦労します。」

そして、わざわざ機械を動かして説明してくださいましたが、機械音痴の私にはよくのみこめません。

でも、やっと手が入るくらいの狭い所のネジ締め、部品の取り替えは大変な作業だというのはよくわかりました。

「ポールやピンの洗浄もします。きれいになったと喜んでもらっています。」

「十一月いっぱいやめると言ったら、どうしても来てくれと言われました。そこで、十二月からは時間を短くしてもらおうと思っています。なにしろ、電気のことかわかり、この仕事ができるのは、シルバ－では私一人のようですから」

聞けば配電盤の整理、端子のとりつけもきちんとされたとか。また、地域では防犯灯の取付けなど頼まれることが多く、そういう

う時は午前中地域の仕事をし、午後出勤とのこと。

「仕事はやねこいので来る人がいない。私が続けることになるでしょう」と聞き、

「ケガをされないように」と労をねぎらって辞去しました。

まなか

青木病院の 作業現場を訪ねて

前の日に電話でお知らせしておいたせいか、朝の七時半、青木病院の入口で待っていてくださいました。「五時半から本宅の鉢植えの手入れをし、七時半ごろこちら（病院裏のガケの下の方にある畑）に来ます。」

本宅の鉢植えは三五〇鉢。水やりや虫とり、時には芽摘みなど、根のいる仕事だろうなと思いました。畑にはダイコン、ホーレン草、春菊、パレイシヨが植えてあり、みかんの木も数本ありました。訪ねたのが渇水時でもあったので、灌水が大変とおっしゃっていました。

「毎朝、三時から四時半まで朝日新聞を八〇部配り、そのあとここに来ています。早朝の仕事は気持ちがいいし、健康にも役立っています」

「仕事は十一時まで。終われば帰ります。院長さんがとてもよくしてくださるので、やり甲斐があります」

こんな話をうかがい、勤務の関係で失礼しました。



喜ばれている

送迎バスの運転

十時四十五分ごろ小用港に着く。待合室外のベンチに数人のお年寄りが座って歓談の最中。

「ごめんなさい。入浴の方ですか」と聞くと、

「そう。送迎バスは週一回水曜日だけ、あとは自分で行っています。送迎は助かります」

そのうちに迎えのマイクロバス到着。おばあさんたちの写真を撮り、運転されている方に写真をと頼むと断られ、やむをえず外から写しました。役場に書いて車の掃除をしておられる所です。

「運転手が八人いて、交替で週に三回出ています。曜日によって場所が

かわります。今日は伊勢木から切串、小用と迎えに行き、十一時前にここに着きます。朝は十時までに伊勢木に行きました。送りは二時すぎ小用、切串、伊勢木と送って帰ります。

マイク口バスの運行は、シルバが始まった昭和六十四年ごろからで、要望があれば島外にも出ます。小学校の野外活動で焼山に行きましたし、親睦旅行で湯来温泉へ案内したこともあります」

最後に「ありがとうございます」「ありがたいことです」の言葉をそえます。

火災の通報に 神経を使う

十一月の初旬のある日、役場を訪ねました。六時前だったので残業の職員も残っており、お二人は宿直室におられました。

「夕方五時から翌朝八時半までの勤務。二人二組で八日に一回していただきます」

「仕事の内容をうかがいますと、庁舎の管理が中心、とても気を使います。八時過ぎまでは残業の職員の呼び出し電話の取りつきが多いです。九時ごろ、全員が帰ったのを確かめて庁舎をまわり、鍵をかけます」

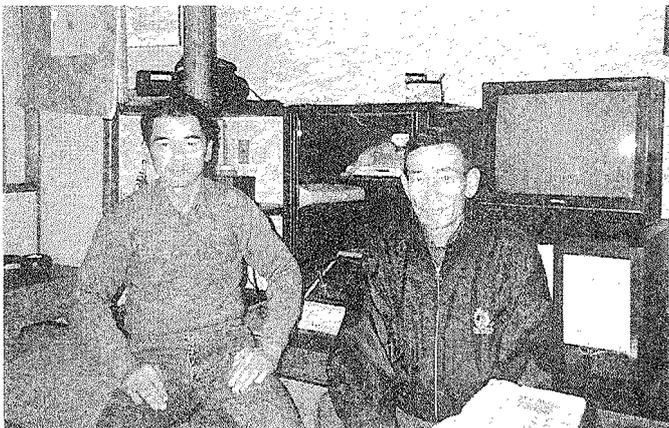
「困ることは、と聞くと、『宿直室のそばの夜間通用門はあけてあり、時々、私たちにことわらずに庁舎に入る人がいること。また、

われら働

時々ある火災の通報です。濃霧とか台風などのために船が欠航するという放送なら少しはおくてもいいが、火災の通報はそうはいきません。消防署から通報があると、すぐ非常ボタンを押し、サイレンを鳴らして発火場所を知らせ、消防団の出動要請をする。一分一秒を争うことなので、

「神経を使います」

防災放送施設が町役場にあるのでこの仕事はやむをえないかもしれませんが、重大な仕事だなと感じて役場を去りました。



「うどんの味の」 うどんだしのつくり方

十一月末、交流館名物の「大豆だしうどん」のだしのつくり方を教わりました。

「朝、八時すぎに来ると、まず大豆を洗います。それから約一時間半、とろ火で煮ます。煮ている間にコブを洗って水にかけ、だしをとります。大豆を煮ただし汁とコブのだし汁と一緒にし、カツオ節を入れたものにうす口の醤油で味つけをし、最後にみりんと酒を入れて味をととのえます。一味みをし、よいと思ったらだしのできあがり」

い自然食です。だしのカツオがない時にはイリコで代用します。アゲとシイタケは小さく刻んで、砂糖と醤油で、少し甘味が勝つように別々に味つけし、煮たてた大豆はザルに入れておきます。あとはネギの刻んだのとカマボコの薄切りを用意します。

うどんは朝来て打ち、客の顔が見えたらゆでます。

遠くから来たお客さんにも喜ばれ、時には品切れとなって気の毒な思いをする時もあります。」



こねている足もとに注目

生活の知恵 農事一口メモ

一、ものの種どき、苗出しは彼岸のあとさきに。

二、大根かしらに、ごぼうしり。

(食べ方)

三、大根食ったら、葉も干しとつけ。

四、娘の意見はたちまでに、麦の肥料は、彼岸までにやれ。

五、大根とうばり、菜葉いまばり。

(大根の施肥はかぶから離す事、菜葉の施肥は今出した濃いものはいけな)

— 山崎 力男 —



お年寄りに喜ばれる のがうれしくて

山下絹恵

私は、特別養護老人ホーム誠心園で、ミニデイサービス（週一日）を始められた時から、シルバ－会員に加入して、お世話になってい

ます。それは、お年寄りの送迎をシルバ－が受け持たれたからです。

朝九時に園を出発して、各地域のお年寄りを迎えに廻る車の介助者で同乗します。引き続きボランティアとして園に残り、寮母さんに教わりながら、お年寄りとお話をしたり、ゲームで遊んだり、いろいろお手伝いさせていただいています。

午後三時まで、一日を楽しく過ぎたお年寄りを無事に、お家までお送りする車の介助者として、再び同乗して一日を終わります。

介助者一人からのスタートでしたが、現在ボランティア七名（内シルバ－会員五名）で、週五日を交代で送迎車に同乗しています。

誠心園での一日を『有り難う。もったいない』と、喜ばれるお年寄りの声がうれしくて、お互いに支え合いながら頑張っています。

生地秋月に帰って

小松 貢

昭和五十八年に、約四十年離れていた生地秋月に帰り住んでいます。

国鉄の定年は五十五才の為、再就職して五年働いた頃に、高齢者能力活用協会が設立されたので、早速入会して、事務局の仕事を行ないました。

その後、青木病院の仕事をしていた頃に、シルバ－人材センターが設立したので、自動的に、センター会員となり、青木病院、町役場、そして昨年から術校のシルバ－ガイドを行っていています。

又、情報誌シルバ－江田島の広報委員の一員として、会のPRと、会員相互の情報交換の手伝いをさせてもらっています。

「世界平和について 思ったこと」

加藤唯夫

昭和五十六年に小林金一さんとフイリピンへ観光に行った。

ガイドさんの案内でモンテルパ・コレヒドール・サンチャゴ要塞を見学し、そして市内観光をした。

ホテルのロビーで休んでいると、ガイドさんが「加藤さん、私の主人を紹介しましょう」と、小林さんと一緒にガイドさんの家に招待され、楽しくご馳走になった。ガイドさんは元小学校の先生、父は貿易商でも有福な家だった。

そして従兄弟会にも招待してもらうことになった。10人余りの小さな会であったが、楽しそうに盛上っていた。ガイドさんが私達を紹介してくれ、「日本・フイリピン友達」と大歓迎され握手をした。

私は、日比間の感情は悪いと思っていた。

しかしそうではなかった。言葉は違うが同じ人間、愛情を持って接すれば平和は生まれてくる。これからも交流を深めていきたいと思う。

歯と健康

樽本将人

私は今、歯の治療に通っています。歯は健康や長寿に密接な関係をもっています。歯が丈夫か否か、合った義歯をしているかどうかは肉体的な影

けではなく、精神面にまで大きな影響を及ぼします。歯の状態と健康については、寝たきり老人の多くは歯が数本しかなく、義歯もありませんところが、健康で活動的な老年者では、歯の健全な人が多いという結果が出ております。

また、歯の状態と食事の内容につ

いて言えば、自分の歯も義歯もない人で何でも噛めるという人は10%でした。自分の歯で噛む人では、なんでも噛めるという人は約70%を占めています。

さらに歯がなくなった人でも、義歯を使用することによって家族と同じような食事ができる人は40から90%に増加した報告もあります。

このような報告から考えられることは、健全な食生活が健康の回復・維持に重要な役割をもっていることだと思えます。

だんだん年をとるにつけて、自分の歯一本でも大事にして、いつまでも健康でありたいものです。

私の好きな言葉

尾崎健夫

頭の回転が鈍く、昼行灯だと自覚していますが、猪突猛進、支離滅裂型で反省ばかり、何事も控えめに心がけていますが、ついつい羽目を外し、ご迷惑をお掛けすると思いますが、宜しくお願ひします。

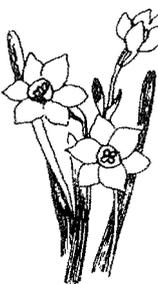
好きな言葉は、

「ヌーボーとして策あり

恬淡として色気あり」

「柳は緑

花は紅」



蒜山・大山親睦旅行

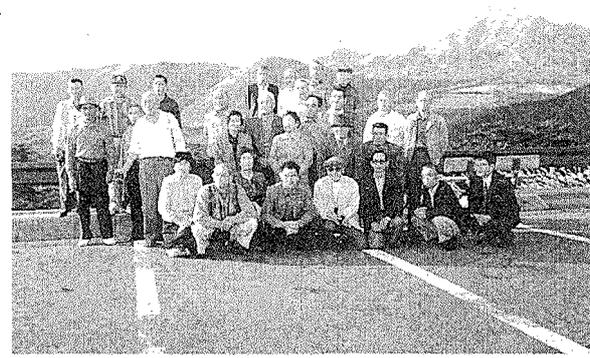
山佐 一男

○とき 十月二十六日～二十七日
 蒜山・大山・皆生温泉・
 境漁港・ワイナリー・
 出雲大社

○参加者 三十八名・バス二台
 (注)二日間とも快晴、無風、適温

車は走る。二台。音戸大橋、大佐
 ドライブインを通過して蒜山へ。
 白樺林、長い裾野の草原、ミニ、
 ニュージランドの感じだ。蒜山へ到
 着。まずトイレ、次に土産物。買う
 まいと思ってもやっぱり買った。
 羊腸の坂道を天へ向って車は走る。
 大山展望台で一服、なかなかの眺め
 である。雲一つなく、大山の全容が
 くつきりと見える。

展望台では油絵グループの角川、
 山佐勇、丸子、西野の四氏が油絵の
 材題に花を咲かせていた。
 近いうちに絵を画きにくるらしい。
 全山、之、紅葉かと思つたが残念、
 紅葉には少し早かった。
 でも、ススキが原のススキは見事
 であつた。これだけでも秋を満喫す
 ることができた。
 本日の終着である皆生温泉「ホテ
 ル清風荘」に到着。
 ホテルの夜は圧巻だつた。
 どこでもそうだが、私はホテルで



の宴会がメインだと思ふ。
 ご多分にもれず、やるわ、やるわ、
 カラオケの順番待ち、どこで練習
 するのかしらんが「うまい」「うま
 い」、いや、「うまい」からやるの
 かも知れん。なんでもいい、賑やか
 な方がよい。加えて手品の名人も出
 場、やっぱり旅は良いと思つた。
 (その翌日)
 年を取つても元気なもんだ、昨夜
 あれだけやったのに。
 江田島シルバー人材センターの強
 さを見せつけられた。
 車は予定を変更して境漁港へ。大
 きな魚市場だ、新鮮な魚がずらり、

しかも安い。皆それぞれに買つてい
 た。
 良い、良いづくしだが、出雲ワイ
 ナリーも良い。ワインを造る工程は
 どうでもよいが試飲の番号が気に入
 った。人間の心理として脱号はした
 くない。一番、二番、三番と最後ま
 で終ると良い気持ちになる。
 最後は一本、二本と買って帰る。
 こういう商法は見習つた方がよい
 と思つた。

“ガイド班研修”

一術校見学者のガイド班は、平成
 六年九月二十九日鷲部在住の元一術
 校参考館長岡村清三氏を講師に招き
 ふるさと交流館二階和室において、
 講習会を行った。
 氏は十五年間に七〇〇回という数
 多く講演に出かけられており、その
 豊富な経験から生まれた話術はわれ
 われ聴講者を大いに魅了した。
 ○案内における対応の仕方
 案内の際には、対象が地元か他県
 の人か、若い人達か或いは熟年かま
 た、それらの混成か、いろんなケー
 スがあると思うがその対象によつて
 話の内容、表現の仕方が変つてくる。
 しかし、背伸びして、あえて美辞麗
 句を並べることなく自然体で話すこ
 とが必要である。
 ○相手にピントを合わせる
 (例として、小学校の入学式で来
 賓の祝辞が皆父兄に合せた内容であ
 り、新一年生はザワついていて。私

最後は出雲大社。ここには日本一
 があるという、一つは出雲大社の本
 殿、二つはしめ縄、三つは大鳥居、
 四つは国旗掲揚台の高さ……
 拜殿で打つ柏手も四つで他の神社
 より一つ多い。
 これも日本一かも知れない。
 縁結びの神様に良縁をしっかりと
 お願いしてきた。
 江田島町シルバー人材センターの
 発展も忘れずに。

はいきなり猫の話をする子供達は
 一斉に注目して来た。(注講師は現
 教育委員会委員長)話の内容は、さ
 ることながら対象にピントを合わせ
 ると必然的に心がこちらに向いてく
 る。
 その他一術校の建築物に話が移り
 大講堂の建設費用、扉の木製の経緯、
 生徒館の赤煉瓦、屋根の経緯等につ
 いて話され、「最後に見学者の中に
 自分から入り込む」、「相手にピント
 を合わせる」、「自然体で話す」、「気
 をついたことは記録しておき、より多
 くの知識を有しておくことが必要」と
 と結ばれた。
 当初予定した時間が不足ぎみであ
 ったが、ガイド担当者にとつて実
 りある二時間であり有意義に終了し
 た。午後からは、六年五月にオープ
 ンしたレクリエーションセンターを
 見学して研修を終えた。
 (新本)

センター組織の紹介

江田島町シルバ－人材センターも発足後三年目に入り、その間事務局組織、会員組織を順次整備して、センターが名実ともに地域の高齢者の拠点となるよう努めています。

今月号はその概略を説明します、会員皆様方のご理解とご協力方よろしくお願い致します。

一、事務局組織

事務局は、センター定款第四条の事業を行なうため、同第十六条により設けられたもので、事務局組織は次のとおりです。

事務局長——主任——主事

「次長

職員氏名

事務局長

森 修一

次長

池本 大作

主任

下平 修子

主事

森 邦彦

主事

澤岡 澄子

嘱託

角川 伍助

嘱託

宇根川 進

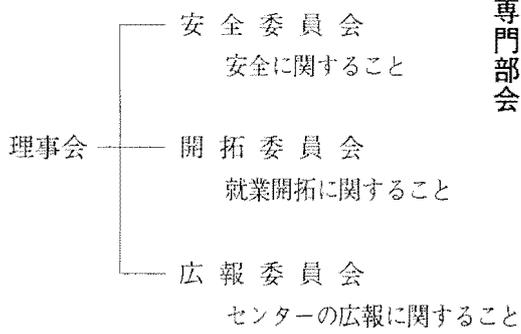
パート

小島美恵子

二、会員組織

会員組織は、センター就業規約により、就業、共同作業、就業開拓、広報等を組織として活動し、効率的な事業運営を計るため、次のとおり専門部会、班長組織を設けています。

(一)専門部会



1 安全委員会

委員長	山 佐 勇
副委員長	吉 田 道 義
委員	村 井 龍 義
委員	角 川 井 義 郎
委員	新 久 朝 夫
委員	山 佐 昭 三

2 開拓委員会

委員長	下 野 一 彦
副委員長	山 本 数 正
委員	土 手 二 秀
委員	山 本 康 夫
委員	山 本 久 夫
委員	浜 森 正 道
委員	出 木 谷 和 義
委員	三 好 徳 夫
委員	宇 根 川 徳 夫

3 広報委員会

委員長	岡 本 光 子
副委員長	下 谷 源 蔵
委員	平 木 重 己
委員	板 垣 宝 潤
委員	小 松 貢 一
委員	新 本 清 一

(二)班長組織

1 地域班

第1地域班(中郷・向側・矢ノ浦)	班長 山 佐 昭 三
------------------	------------

第2地域班(山田・鷺部・江南)

班長 村 井 義 郎

第3地域班(秋月)

班長 小 松 貢 一

第4地域班(小用)

班長 稲 生 貞 仁

第5地域班(切串・幸ノ浦・大須)

班長 津 々 茂 宮 原 彦

編集後記

明けましておめでとうございませう。今年も「シルバ－江田島」をよろしくおねがいします。

これで「シルバ－江田島」は五号になります。その時々々の行事、会員の皆さまの働く姿などをのせ、前号からは「会員の自己紹介」を企画しました。これは今後も続ける予定です。ぜひ投稿をお願いします。また、取材の折には今までも同様、いろいろ話してください。今年もお互いに息災で働きたいものです。安全と健康には十分気をつけましよう。